

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 9 月 2 日 (2005.9.2)

【公開番号】特開 2004-21107 (P2004-21107A)  
 【公開日】平成 16 年 1 月 22 日 (2004.1.22)  
 【年通号数】公開・登録公報 2004-003  
 【出願番号】特願 2002-178786 (P2002-178786)  
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 2 B 1/10  
 B 0 5 C 5/00  
 B 0 5 C 11/00  
 B 0 5 D 1/26  
 B 0 5 D 3/00  
 G 0 2 C 7/02

【F I】

G 0 2 B 1/10 Z  
 B 0 5 C 5/00 1 0 1  
 B 0 5 C 11/00  
 B 0 5 D 1/26 Z  
 B 0 5 D 3/00 D  
 G 0 2 C 7/02

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 3 月 7 日 (2005.3.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】液状体の吐出装置および光学部材の製造方法

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

流動性を有した液状体を被吐出物に吐出する複数のノズルが設けられた液滴吐出ヘッドと、

この液滴吐出ヘッドおよび前記被吐出物のうちの少なくともいずれか一方を相対的に移動させる移動手段と、

前記被吐出物の外郭を認識し、この外郭に基づいて、前記液滴吐出ヘッドの吐出および前記移動手段による移動のうちの少なくともいずれか一方を制御する制御手段とを備えることを特徴とする吐出装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の吐出装置において、

前記制御手段は、前記液滴吐出ヘッドから前記液状体を吐出する前記被吐出物の所定の表面としての被吐出面について、前記液状体を吐出する方向における当該被吐出面の外郭を認識する

ことを特徴とする吐出装置。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載の吐出装置において、

前記制御手段は、前記被吐出物を撮像した撮像データに基づいて前記被吐出面の外郭を認識する

ことを特徴とする吐出装置。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の吐出装置において、

前記制御手段は、前記撮像データにて認識した前記被吐出面の外郭に基づき、画像処理によって、前記液状体を吐出する被吐出範囲を決定する画像処理手段を備える

ことを特徴とする吐出装置。

【請求項 5】

請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の吐出装置において、

前記被吐出物は光学素子であり、

この光学素子の所定の表面に前記液状体を吐出して膜を形成する

ことを特徴とする吐出装置。

【請求項 6】

光学素子を有し、この光学素子の表面に流動性を有する液状体を吐出することにより、膜が形成された光学部材の製造方法であって、

前記液状体を吐出する前記光学素子の所定の表面としての被吐出面の外郭を認識し、

この外郭に基づいて、前記液状体を吐出する複数のノズルが設けられた液滴吐出ヘッドを、前記光学素子と相対的に移動させ、

前記複数の液滴吐出ヘッドの各ノズルから前記液状体を、前記被吐出面の外郭に基づき所定の被吐出範囲に吐出する

ことを特徴とする光学部材の製造方法。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の光学部材の製造方法において、

前記光学素子は、眼鏡用のレンズである

ことを特徴とする光学部材の製造方法。

【請求項 8】

請求項 6 または請求項 7 に記載の光学部材の製造方法において、

前記光学素子は、位置認識手段を備えている

ことを特徴とする光学部材の製造方法。